

9月30日1年総合的な探究の時間では加東市まちづくり政策部まちづくり創造課から藤原恵さんにきていただき、「加東市の現状と地方創生の取組」についてお話をいただきました。現在の加東市の状況(人口推移・魅力・取組など)からまちづくりの提案の進め方についての内容でした。10月7日には加東市観光協会事務局長の阿江様を招いて「加東市の観光の取組」について講演いただきます。この2回の説明をもって各グループで街づくりの課題を見つけ、課題解決方法について検討し、1月の発表まで持って行く流れです。校内発表の後には、安田加東市長にお会いして、懇談をさせていただき予定です。昨年に引き続きの課題研究となります。しっかりと調べてよい提案を期待しています。頑張りましょう。



10月2日は新人大会東播地区予選が各会場で行われました。バドミントン男女は団体戦。男子は優勝、女子は初めて3位に入り、ともに県大会出場を決めました。県大会は11月6日・7日と加古川方面で行われます。卓球部は、個人、団体に臨みました。女子個人では県大会代表決定戦まで行ったのですが惜しくも敗戦。男子団体も敗者復活戦で敗退と県大会出場を逃したようですが、健闘したようです。剣道部は部員一名ながら練習を頑張っています。惜しくも初戦敗退(相手は県大会出場)だったようです。そしてソフトテニス部女子の高見選手がシングルの大会で東播地区大会を勝ち抜き、県大会出場を決めたそうです。どの部もよく頑張りました。



そして野球部は秋季大会決勝です。10月2日の神戸新聞北播版には30日に取材を受けた内容での記事が掲載され、「社高目指せ初優勝」と雰囲気を盛り上げていただきました。迎えた当日、緊張感溢れる球場入りし、球場内の練習では、やや硬さも見られたのですが、今回は後攻となりますので、1回表の相手の攻撃をしっかり押さえれば波に乗れるかと思ひ、駆け付けた多くの観客とともに試合開始を待ちました。安田加東市長も応援に来られ、さらには多数の野球部OB、本校OB等関係者が見守る中、プレーボール。本校の先発は芝本投手です。1回



表の神戸学院大学附属高校の攻撃を難なく守り、1回裏の本校の攻撃。2つのフォアボールでチャンス到来。笠井捕手の2塁打で2点先制。芝本投手のタイムリーでさらに1点追加し、2安打で3得点を先制しました。その後は相手ピッチャーも変わり、抑えられていたのですが、3回表の攻撃で2アウトから連打と四球で満塁となり、タイムリーを浴びて1点差に詰め寄せられ、緊迫した状態になりました。一進一退の攻防が続く中、7回裏に相手のピッチャーに疲れが見えたところでフォアボールを選び、パスボールで3塁まで進み、申告敬遠で1アウト1塁3塁のチャンス。そこで勝股選手が絶妙のスライズを決め、ノーヒットで追加点をあげました。さらに、芝本投手のこの日2本目のタイムリーが飛び出し、5対2と3点差になりました。ヒット7本を打たれながら(本校は5本)要所要所を締め、最終回最後のバッターを内野ゴロに仕留めゲームセット。歓喜の瞬間が訪れました。マウンドにベンチ入りした選手全員が駆け寄り、喜びを爆発させていました。その輪には、準決勝で死球を受け、決勝に出場できなかった七條選手の姿も。スタンドでもあちらこちらで喜ぶ声が聞こえています。大きな拍手に包まれて選手たちが整列。校旗の掲揚とともに校歌が流れました。やってくれました。夏のベスト4以降自分たちで目的意識を共有し、プレー一つひとつの精度にこだわって練習してきた成果が出た瞬間です。本当におめでとう。



表の神戸学院大学附属高校の攻撃を難なく守り、1回裏の本校の攻撃。2つのフォアボールでチャンス到来。笠井捕手の2塁打で2点先制。芝本投手のタイムリーでさらに1点追加し、2安打で3得点を先制しました。その後は相手ピッチャーも変わり、抑えられていたのですが、3回表の攻撃で2アウトから連打と四球で満塁となり、タイムリーを浴びて1点差に詰め寄せられ、緊迫した状態になりました。一進一退の攻防が続く中、7回裏に相手のピッチャーに疲れが見えたところでフォアボールを選び、パスボールで3塁まで進み、申告敬遠で1アウト1塁3塁のチャンス。そこで勝股選手が絶妙のスライズを決め、ノーヒットで追加点をあげました。さらに、芝本投手のこの日2本目のタイムリーが飛び出し、5対2と3点差になりました。ヒット7本を打たれながら(本校は5本)要所要所を締め、最終回最後のバッターを内野ゴロに仕留めゲームセット。歓喜の瞬間が訪れました。マウンドにベンチ入りした選手全員が駆け寄り、喜びを爆発させていました。その輪には、準決勝で死球を受け、決勝に出場できなかった七條選手の姿も。スタンドでもあちらこちらで喜ぶ声が聞こえています。大きな拍手に包まれて選手たちが整列。校旗の掲揚とともに校歌が流れました。やってくれました。夏のベスト4以降自分たちで目的意識を共有し、プレー一つひとつの精度にこだわって練習してきた成果が出た瞬間です。本当におめでとう。



その後、閉会式の準備の間に、山本監督と後藤主将がインタビューを受けました。監督は「夏の延長で今がある」と3年生の頑張りがこへつなだったことを話され、「近畿大会へ自信を持って臨む」と力強いコメントで締めくくった主将のコメントが今の野球部の快進撃を支え

ていると実感させてくれました。閉会式では、優勝旗、盾、レプリカやメダル、表彰状をいただき、場内を行進。颯爽と歩く姿に涙がこぼれそうになりました。そして集合写真。夏の大会以後、緊急事態宣言から練習試合も十分にできず、一週間で4試合をこなすハードな日程にも耐え、試合でも粘り強さを発揮してきたチーム。大きな自信とともに近畿大会2勝に向けて気持ちを切り替えてやってくれると信じています。10月16日から滋賀県



で始まる近畿大会。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から応援バスは出せませんし、近畿大会では音楽による応援も禁止とのことです。選手の活躍に期待を寄せるしかありませんが、個人的な応援は可能ということ。現地でなくても心の中で精一杯の応援をしましょう。球場の外に出てきた選手たちは、保護

者に主将が感謝の気持ちを述べ、近畿大会に向けた決意表明をしてくださいました。連日応援に駆けつけていただいた保護者の皆さん、本当におめでとうございます。そして本当にありがとうございました。

また、西上兵庫県教育長が試合後スタンドに上がってこれ、祝福をしていただきました。さらに、一緒に見ていた同窓会副会長の黒石様と林様が会長の藤本百男兵庫県議会議員に連絡を取っていただき、私の方にも祝福のメッセージが届きました。本当に多くの方々の応援あってのことだと感謝の気持ちでいっぱいになりました。3日の神戸新聞には北播版に応援団席の様子が掲載され、さらに運動面には歓喜の瞬間が掲載されました(1面にも掲載されていました)。



スタンドで観戦させていただくたびに、野球ファンのまた社高校野球部ファンの熱意に感動します。大会が進むごとに観客も増え、関心を持っていただいていることを実感するのですが、それだけに厳しい目を向けられることもあろうかと思えます。感染防止対策や、通学時の自転車マナーやバスの乗車マナー、車の送迎でのマナーなど多くの方々に注目をされます。私たち自身がしっかりと自覚し、周りの目を意識した学校生活をしていかなければなりません。注目されるからマナーを守るという低いレベルでなく、社高校生として、一人の人間としてどうあるべきかを見直すチャンスだと思いますので、通学に関するマナーだけでなく、学習態度や、部活動での態度、校外での振る舞いなど自分を見つめ直して学校生活を送ってください。保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

10月4日2年生は遠足に出かけました。陶芸教室と宝塚歌劇の観劇です。緊急事態宣言が解除になり、活動時間、活動場所が広がりを見せてきます。ますます各自の感染防止対策や健康管理の意識が問われるようになってきます。新規感染も減少する中、そういった意識を高め、しっかりとした目標を持って日々の生活を充実したものに、行事等も実施できるよう皆さんの協力をお願いします。

